

いのちと健康を守る活動

11年目のモロの村の保健医療事業 -PIHSとHANDS協働のこれまで、これから-

2002年、国際ボランティア貯金寄付金配分を受けて、シギルなど3地区で実施したPIHSと協働の保健医療事業は、対象や内容を拡大・発展させながら11年目を迎えました。「モロの村の保健ボランティア育成」、「モロの村のハーブ薬と鍼灸研修」等々のテーマの繰り返しですが、対象の村々では確かな変化が認められます。

3年前からは、NPO法人WE21ジャパンみどりの支援を受けて、バロンギスの耕耘機貸出、ティナガカのヤシ屋根共同出荷、そして今年加わったトゥヤンの女性グループMULANのバニグ製品販売など、村のヘルスポスト運営自主財源事業も実施しています。

5月末の現地訪問では、これら自主財源事業実施の3村を中心に、資金、管理両面での自立が進んでいることが確認できました。ティナガカンでは、新役員の宣誓式にバランガイキャプテン(村長)が立ち会う(写真下)など、地域行政との協力も進んでいます。



HANDSの現状を考慮し、PIHSには2年後をめどに資金面の支援は一旦終了する旨、提案しました。

今年度は準備期間と位置付けて、HANDS自己資金(FY基金)で小規模事業を実施します。申請時の計画、予算の縛りを課さない代わりに、3ヶ月に一度の報告を通じて、PIHS本来のダイナミックな活動による確かな実りを、FY基金提供者、会員にお伝えしていきます。

以下、ナフサさんから届いた4-6月報告要旨です。

<巡回診療>

学校が夏休みの4-5月、男児の割礼を中心とする巡回診療を、ティナガカン、トゥヤン、ロテ、バロンギス、ルポケンの5地区で実施。各会場の受診者合計は、割礼56人、一般診療122人、歯科診療66人、血液型検査92人、合計延べ336人。

うち、パリンバン町のバロンギスとルポケンの歯科

診療については、ボランティアの歯科医師派遣のみ手配し、実施は地区の保健ボランティアが耕耘機貸出の収益を使って行った。一番遠くてモニターが大変なパリンバンの自主運営は心強い。

<パソコンで保健ボランティアも報告作成>

巡回診療、研修、スタッフ手当、事務機器あわせて50万円の予算枠を考へて、パソコンは中古のラップトップ(約3万円)を購入。保健ボランティアもパソコン操作を習い始めた。スタッフ不足の折、報告の一部を各村の保健ボランティアに委託できれば助かる。

<ヘルスポスト用の常備薬・ハーブ薬作り>

各村常備のハーブ薬を作った。6人4日間の作業の成果は、ターメリック15kg、レモングラス10kg、カプセル入りターメリック1500個、ラグンデ茶26袋、サンボン茶32袋。ABC21袋。カプセル入りモリンガ250袋。

<研修 その1 病気の基礎知識>

サランガニ州都アナベル町カラス村で一般的な病気について学習(30人参加)。参加者の一人バランガイ議員から、州政府がハーブ薬センター開設を計画しているという情報もたらされ、関心を集めた。

<研修 その2 東洋療法の知識と実技の定着>

6月末の3日間、ウハウの研修センターに、16名が集まって、鍼灸の知識と技能の復習をした。今年の目標は実際に患者治療の事例を増やすこと。今後も研修を重ねて、知識と技能の定着を図りたい(写真)

ジョジョのクリニック報告 3-5月分

* 支援患者数: 48名

風邪・インフルエンザ 25・歯痛 7・胃腸疾患 3・回虫 3・皮膚炎 3・外傷 2・他、気管支喘息、膀胱炎など各1名。

* 巡回診療:

5/12: MSU 大学同窓会支援によりサムラングで実施。医師3名と歯科医師2名で、男児割礼38人、一般診療168人、歯科40人が受診した。

* 特別医療支援:

4/20 心臓病のヘルメニアのダバオでの定期検査結果は良好。今年度もミアソン寮母として勤務継続の予定。

4/30 精神疾患のエドナは投薬と注射で順調に回復。6月の復学決定。